

ミャンマー国人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト

No.10/ 2013年5月15日

ヤンゴンからミンガラバー

5月に入りヤンゴンでも今年初めての雨が降り始め、猛暑も少しずつ和らぎつつあります。

トライアル研修

プロジェクトでは2月下旬から3月初旬にかけて実施したトレーナー養成研修（TOT）終了後、TOTに参加した研修生自身が講師となり、各地で研修やワークショップを実施していくための準備を進めています。その手始めとして、研修終了直後、各参加者に、同僚や身近な人を集めて学んだことを伝えるための簡単な講習を実施するようにお願いしました（Trial Training）。まだTOTの熱気さめやらないうちに、研修で身に付けたトレーナーとしての技術を試してみると同時に、実際に教えることによって知識の定着を深める、また身近な人たちにプロジェクト情報を広めることで今後の活動をやりやすくするなど、複数の効果を意図していました。さらにもう一つ、今回のTOT参加者は多様な機関・組織、地域、立場の人たちが集まっており、研修を独自に企画・実施できる状況の参加者がどのくらいいるのかを見極め、講師の活用方法など、今後の進め方を考える上で参考にしたいという目的もありました。現時点で32名の参加者の半数以上の18名からすでにTrail Trainingを実施したとの報告書があがってきています。練習として実施してもらったためプロジェクトからは全く予算をつけていないにも関わらず、半日から長いものでは3日間にわたるワークショップもいくつかありました。



ミャンマー女性課題連盟からの参加者が講師となって開催したワークショップ（シャン州、3/18-20）

中でも、マンダレーでは、研修生5名（警察、社会福祉局、ミャンマー女性課題連盟、ミャンマー母子福祉協会から）が合同で3日間のワークショップを、モーラマインでは3名（警察、社会福祉局、ミャンマー女性課題連盟から）が2日間のワークショップを行っています。講師も参加者も違う組織、立場の人が入り混じり、一緒に人身取引について学び議論するという、このプロジェクトならではの企画です。また、自分たちだけでは十分でない部分については、他の部署の職員や地域のNGOに講師を依頼したり、開会式・閉会式には地域の役員を招待し挨拶をしてもらうなど、企画力やネットワーク力も大いに発揮してくれています。また、土曜の午後や日曜日丸一日を使い、同僚に研修をした人たちもいて、その熱意に頭が下がる思いです。



グループワークをする参加者たち（モン州、4/9-10）

ほとんどの研修生がグループワークやディスカッションを組み入れた参加型の研修を行っており、受講した人たちの反応も活発でとても良かったと報告してくれています。教材はTOTで使ったものの中から内容に合わせて選択し、コピーして使用していました。残念だったのは、TOT直後にネーピードーの社会福祉局と警察が合同で3日間の研修を企画していたのですが、あまりの忙しさにいまだ実現していないこと。ネーピードーの現状からして仕方ないのですが、どういう形でそれぞれの研修生（コアトレーナー）の能力を活かしていけばいいのかが次の課題です。

TOT 参加者による研修のための準備ワークショップ

TOT 研修に参加した研修生による研修 (Multiplier Course) を6月に予定しており、そのための準備ワークショップを5月11-12日の2日間で実施しました。研修生自らが話し合ってプログラムを作成し、研修の準備をするためのものです。

Multiplier Course はヤンゴンとマンダレーでそれぞれ3日間ずつ開催予定ですので、まず二つのグループに分かれてもらい、それぞれの地域の実情に合い、参加するトレーナーの強みをいかしたプログラムのドラフトを作成してもらいました。プログラム構成だけでなく、時間配分、担当講師、必要な文房具等など詳細についても話し合い、研修終了時には二つのプログラムが出来上がりました。それぞれの担当講師は研修までさらに準備を進め、研修時にグループで最終打ち合わせを行って実施する予定です。



ワークショップでは、TOT の追加講義と、Multiplier course の参加者に作成してもらう予定のアクションプランについての説明も行いました。

追加講義としては、TOT 研修終了後のアンケートでリクエストの多かった人身取引と労働に関する分野について、1日目に2時間のセッションを持ちました。労働に関する法律の改正や新しい法律について、また職業訓練や外国に働きに行く人たちの斡旋業者についてなど具体的な話も多く、受講生からも次々と質問が上がり、時間が足りないくらいでした。

2日目にはヤンゴン、マンダレー、ムセ、モーラミヤ

インの人身取引被害者のシェルターで働いている参加者に、写真を使いながらシェルターの現状と課題などについて一人20分程度のプレゼンテーションをしてもらいました。これもTOT時の「シェルターを訪問したい」という研修生からのリクエストで設定したもので(訪問までは企画できませんが)、違う組織から来ている人たちの集まりだからこそできる企画であり、研修生通しが互いに教えあうことで知識や共通認識を深めていければと思っています。



Multiplier Course は研修生に今まで学んできたことを伝え、教える実践の場を提供するという、いわば今年度のTOTの流れの最後の段階、研修の総仕上げとなります。同時に、研修の中で人身取引の被害者の保護、自立支援のためのアクションプランの作成も予定しているので、プロジェクトの新たな段階の始まりともいえます。アクションプラン作成では、講師役のトレーナーの人たちにも参加者と一緒にプランづくりに加わってもらう予定です。

UNIAP が2009年からGMS各国で実施している Shelter Self Improvement Project がミャンマーでも始まり、社会福祉訓練校で開催された第1回目のワークショップ(4/4,5)にオブザーバー参加しました。各国の状況に合わせて約1年間の期間で実施されており、下記が主な目的となっています。

- * 施設としての機能強化
- * 職員の能力強化
- * 国内のシェルター間で視察を行って課題を話し合い、シェルター間のネットワークを構築する

詳細はUNIAPのウェブサイトよりご確認頂けます。

http://www.no-trafficking.org/init_shelter.html



本通信は、プロジェクトの進捗状況および周辺情報をお知らせするために専門家の見聞をお送りしています。JICA およびプロジェクトのカウンターパートの見解ではありません。禁転載